

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

時代を超えて受け継ぐ「自主・自律・自由」の校風のもと、予測不能な21世紀社会をしなやかにたくましく生き抜く力を育み、多様性を認め、人と人・社会との繋がりを大切に行動する意識を醸成し、それらによってこれからの多文化共生社会をリードし、より良い世界を創ることに貢献できる人間を育成する学校

そのために、すべての教育活動を通じて、以下の力を育む。

1. 幅広い教養を身に付け、主体的に学ぶことができ、自らのキャリアをデザインする力
2. 広い視野と当事者意識を持って社会や世界の課題に向き合い、意見の交換や調整を通して協働して課題を解決する力
3. 多様性を認識し、互いに切磋琢磨し支え合いながら、未知なるものに果敢に挑戦し、新しい価値を創造する力

また、このような教育活動を推進するために、教職員の同僚性を高め、新たな課題に対してもチームで克服できる体制を整え、学校力を向上させる。

2 中期的目標

1 幅広い教養を身に付け、主体的に学ぶことができ、自らのキャリアをデザインする力を育む。

- ア 生徒が自ら課題設定ができ自学自習できるように、主体的な学びの姿勢を引き出して、積極的意欲的に学習に取り組む力を育成する。
- イ 体験的な活動や探究的な学習等を取り入れて、課題を設定し解決する力や、科学的で論理的な見方、考え方、表現力等を育成する。
- ウ 新学習指導要領や高大接続改革など、新たな教育課題に対応できるよう組織的に教員の授業力の向上をめざす。
- エ 三年間を見据えた進路指導計画を更新し、生徒・教職員・保護者間でその内容を共有し、進路指導を充実させる。
- オ 「総合的な探究の時間」を進路探究と位置づけ、段階的なキャリア形成を支援し、全ての生徒の進路希望の実現を図る。
- ※ 授業アンケートにおいて、授業に対する生徒の興味・関心の喚起と知識・技能の定着の観点から授業を評価し、継続的な向上を図る。
- ※ 学校教育自己診断において、生徒「授業は自分の学力向上に役立っている」の積極的回答、令和3年度85%以上とし、令和5年度90%をめざす。(平成30年度:80.8%、令和元年度:88.6%、令和2年度82.4%)
- ※ 生徒の進路希望の実現を図り、令和5年度に、京大・阪大・神大の現役合格者数30名以上(平成30年度:21名、令和元年度:25名、令和2年度:30名)を含む国公立大現役合格者数120名(平成30年度:62名、令和元年度:102名、令和2年度:109)をめざす。

2 広い視野と当事者意識を持って社会や世界の課題に向き合い、意見の交換や調整を通して協働して課題を解決する力を育む。

- ア 「自主・自律・自由」の精神の本校の伝統を引き継ぎ、Withコロナの時代の新しい生活様式の下で意欲的に活動する力を育む。
- イ さまざまな学校行事や生徒会活動の中で、協力と協働の精神を育み、ともに高めあう力や自主的に活動する力を育成する。
- ウ 生徒会活動・ボランティア活動の活性化を図り、地域や社会との関わりの中で成長させる。
- エ 社会や世界の課題に触れ、それについて仲間とともに解決策を模索し、自分たちの考えを発信する力を育てる。
- ※ 学校教育自己診断において、令和5年度に、生徒「生徒会活動や学校行事に積極的に参加している」の積極的回答を90%以上維持。(平成30年度:86.3%、令和元年度:82.7%、令和2年度:92.3%)
- ※ プレゼンテーションしたり、ポスターセッションする機会を全学年で持ち、令和5年度までに学年を超えて学び合う機会を設ける。

3 多様性を認識し、互いに切磋琢磨し支え合いながら、未知なるものに果敢に挑戦し、新しい価値を創造する力を育む。

- ア 部活動・生徒会活動・学校行事等において、コミュニケーション力・調整力を養い、良好な人間関係を構築する力を育む。
- イ 人権尊重の意識の向上に努める。また、安全安心な学校づくりを推進し、教育相談委員会による心の支援機能を充実強化する。
- ウ 留学生や姉妹校との交流を含め、国際交流等の多様な機会を設けて、異文化理解を深め、コミュニケーション能力を高める。
- エ ユネスコスクールの取組みを様々な教育活動において発展させる中で、世界の持続発展に貢献できる力を育む。
- ※ 令和5年度までに、1年次の部活動加入率95%以上の維持を図る。(平成30年度:98.8%、令和元年度:98.8%、令和2年度95.6%)
- ※ 保護者向け学校教育自己診断で、令和5年度までに、生徒の自主・自律・自由を重んじる校風に対する支持率90%以上の水準維持に努める。(平成30年度:94.3%、令和元年度:93.6%、令和2年度:91.5%)

4 教職員の同僚性を高め、新たな課題に対してもチームで克服できる体制を整え、学校力の向上を図る。

- ア 業務の見直し、組織の再編等により、より機能的な体制を作り、時間外勤務時間の縮小をめざす。
- イ 学年・分掌・教科間の連携を密にし、課題の共有や見える化を進め、諸課題に対して組織としてよりスムーズに動ける体制を構築する。
- ウ 諸課題に関する校内研修での学ぶ機会を設け、チームで取り組む体制を整え、組織的・継続的な人材育成を行う。
- ※ 時間外勤務時間の月平均を令和5年度まで毎年、前年度より減らす。(令和元年度:32.2時間、令和2年度:33.1時間)
- ※ 学校教育自己診断において、教職員の「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に連携している」令和5年度に60%以上をめざす。(令和元年度:31.0%、令和2年度:46.4%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R2年度値〕	自己評価
1 幅広い教養を身に付け、主体的に学ぶことができ、自らのキャリアをデザインする力を育む	ア 積極的・意欲的に学習に取り組む力の育成	ア ・力をつける授業を基本に、小テスト・課題等の効果的な活用を行い、主体的かつ積極的に学習に取り組む姿勢を育成する。 ・前年度の学びの定着等へも配慮し、学校生活実態調査や模擬試験等の分析会を行い、定着の低い分野等の補強等に活かす。	ア ・学校教育自己診断「授業は自分の学力向上に役立っている」の積極的回答 85%以上。〔82.4%〕 ・小テスト・課題等の効果的な活用について教員研修実施1回。〔新規〕 ・担任及び教科担当参加の分析会の実施各学期1回。〔新規〕	
	イ 様々な学習の工夫	イ ・各教科で探究的な学習に取り組んだり、学ぶことの楽しさを知る機会を設ける。 ・英語四技能を伸ばし、実用的な英語力を育成する取組を行う。 ・学習支援クラウドサービスの活用や1人1台端末導入に向けて校内体制（ICT活用PT：各教科、各学年1名）を整備し、研修や好事例の共有を行い、取り組みやすい環境を作る。	イ ・サイエンスレクチャー2回実施〔1〕。 ・SDGsに関する取組の実施2回〔新規〕 ・1年：グループでのプレゼンテーション1回 2年：スピーチ1回、英語エッセイ集の発行等これまでの取組を維持する。〔維持〕 ・ICT活用PT主催で好事例を共有する機会等の研修の実施2回〔新規〕	
	ウ 授業力の向上	ウ ・互見授業を実施し、フランクに授業について話し合える機会を設けると同時に、組織的な授業力向上の取組を行う。 ・観点別学習状況の評価方法について教科で決定し、授業力向上につなげる。また、評価に係る教務内規の改訂を行う。観点PT（各教科1名）により推進する。	ウ ・互見授業 全教員実施。感想シートを活用。 ・全教科で研究授業を実施する。 ・各教科で試行を行い、問題点等を共有し、改善につなげる。観点PT主催の研修の実施3回〔新規〕	
	エ 進路指導の充実	エ ・3年間の進路指導計画について、教職員間の共有を徹底し、生徒・保護者への周知を行う。	エ ・各学年1回保護者への周知の機会を設ける。〔新規〕 ・学校教育自己診断の積極的回答「進路に関する必要な情報を提供」生徒：85%以上維持。〔85.2%〕保護者：「進路指導の適切さ」前年より増〔72.2%〕「情報の伝わり方」60%以上〔58.4%〕をめざす。	
	オ キャリア形成支援による進路希望の実現	オ ・「総合的な探究の時間」を進路探究と位置づけ、3年間を見通した計画を策定し、自らの将来を切り拓く力をつける。 ・1年次より自分の将来を描くことができるよう将来について考える機会を設け、より広い視野で将来について考える機会を設け、生徒の進路希望の実現を図る。 ・生徒のニーズに合う、効果的なサタデーセミナー（サタゼミ）を実施する。	オ ・進路指導部の分掌とし、担任団や教科・委員会等と連携して、高校卒業後だけでなく、その後の人生についても考える機会を持つ。 1・2年生：各1回以上〔新規〕 ・学校教育自己診断の積極的回答 生徒「将来の進路や生き方を考える機会がある。」80%台維持。〔83.4%〕 ・京大阪大神大の現役合格者数30名前後〔30〕を含む国公立大への現役合格者数110名以上。〔109〕 ・新たなサタゼミの実施とその検証を行う。実施10回。検証のための資料作成。〔R2中止〕	

府立春日丘高等学校

<p>2 広い視野と当事者意識を持って社会や世界の課題に向き合い、意見の交換や調整を通じて協同して課題を解決する力を育む</p>	<p>ア 伝統の継承と新しい生活様式の下での意欲的に活動する力</p> <p>イ 学校行事・生徒会活動の中で、高め合う力・自主的に活動する力の育成</p> <p>ウ 地域や社会との関わりの中での成長</p> <p>エ 自分たちの考えを発信する機会</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度中止・縮小された学校行事の円滑な実施。 ・「自主・自律・自由」の本質を理解し、TPOを意識して行動ができる生徒の育成。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒図書委員会の選書活動や国語科の生徒文集「あゆみ」内の読書感想文などの取組を通じて、読書活動の充実を図る。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元NPOや中学校との連携をさらに深め、生徒が社会の課題と向き合うきっかけとする。 ・高大連携の推進により、地域の教育力向上に貢献する。 <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な行事の中で、社会が世界の課題に触れ、仲間とともに考え、自分たちの意見を発信する力を育成する。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで9月実施だった体育祭を新たに6月実施とする。また、新たな形態で音楽会を実施する。その円滑な実施と生徒の満足度（アンケートによる肯定的回答）90%をめざす。〔新規〕 ・1日の遅刻数8.5日以下。〔8.3日〕 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断の「読書率」40%以上〔34.9%〕 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度中止になった取組の復活や新たな取組への参加2回以上。〔新規〕 ・NPOとの連携 2回以上〔新規〕 ・立命館大学や大阪教育大学との連携による事業の展開や地域の中学校との交流等の実施。3回以上〔R2中止〕 <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」での取組みをクラス・学年で発表する機会を1・2年生で持つ。また、その質を向上させる。 	<p>イ</p>
<p>3 多様性を認識し、互いに切磋琢磨し支え合いながら、未知なるものに果敢に挑戦し、新しい価値を創造する力を育む</p>	<p>ア 良好な人間関係の構築</p> <p>イ 安全安心な学校づくりの推進</p> <p>ウ 異文化理解</p> <p>エ 世界の持続発展に貢献できる力の育成</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤蔭祭等の学校行事や部活動を通じて、コミュニケーション力や調整力を身に付け、よりよい人間関係を構築する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が協力して生徒理解を深めるとともに生徒の規範意識を醸成する。 ・教育相談体制の一層の強化とケース会議や教育支援の体制の構築。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流の実施は今年度も難しいかもしれないが、それに代わる取組みの中で、異文化理解を深める。 <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコスクールの活動の活性化をはかり、多くの生徒が行動するきっかけを作ったり、SDGsに関係する取組を推進し、学校外との連携や生徒の活動の場を広げ、生徒の成長につなげる。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」の積極的的回答90%以上維持。〔91.9%〕 ・1年生の部活動加入率95%以上維持。〔95.6%〕 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断で、保護者の「相談対応への満足度」60%後半維持。〔65.4%〕生徒の「担任意外にも気軽に相談できる先生がいる。」45%前後維持。〔44.5%〕 ・教育相談委員会で集約した情報の教職員への共有やケース会議等の開催等、より迅速に対応できる体制を作る。学校教育自己診断（新設項目）教職員の肯定感50%以上〔新規〕 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年の国際交流等の取組みの代替案の実施。2つ以上。〔新規〕 <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の参加の機会、地域との交流の機会をできるかぎり持つ、〔令和2年度コロナ禍により0回。令和元年度：9回〕 ・生徒が活動できる場を開拓する。1つ以上〔新規〕 	
<p>4 教職員の同僚性を高め、新たな課題に対してもチームで克服できる体制を整え、学校力の向上を図る</p>	<p>ア 機能的な体制づくり</p> <p>イ 連携の強化</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務時間の原因の分析を行い、縮減に向けての対策を講じる。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会への意見の集約、運営委員会からの周知等を丁寧に行い、連携を強化し、動きやすい環境づくりを行う。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全衛生委員会を中心に時間外勤務時間の縮減について、全学的に対策を考え、実行に移す。月平均前年度より減。〔33.1時間〕 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断における教職員の「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に連携している」50%前後をめざす。〔46.4%〕 	